

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

小中学生の部

奥の細道  
むすびの地



令和八年一月度 入賞句一覧

投句数 五百三十一句

特選

星野 勝 選

手がかりは雪の足あとかくれんぼ

大垣市

中村 朱里（小四）

一月後半に大垣でも雪が降りました。この地方も、年に数回積もることがありますね。雪が降ると登下校など大変ですが、心がなんとなくウキウキするのも確かです。作者は雪が積もったグラウンドか公園でかくれんぼをしていて鬼になったのでしょうか。新雪に残った足跡を手掛かりに、隠れている仲間を追い詰めていく緊張感、したり顔で隠れ場所に迫る様子が目に浮かんできます。下五の「かくれんぼ」が種明かしのような楽しい句ですね。

いきしろしくちからおばけとんでいく

大垣市

水戸 咲那（小四）

季語「いきしろし」は冬の季語。この時期は普通に呼吸をしても吐く息は白くなりますね。作者はその白い息を「おばけ」にたとえて表現しました。だれもが経験する冬の「コマをうまく自分だけの表現で十七音にまとめています。確かに口や鼻から出る白い息は、一度たりとも同じ形にはなりませんよね。その様子を「おばけ」としたところに作者のオリジナリティーがあります。いったいどんな「おばけ」に出会えたのでしょうか。

冬風に負けないようにペダルこぐ

加茂郡川辺町

梅村 姫由陽（中三）

中三の作者は、今受験の真只中。自転車をこいで学校か塾に向かっているのかもしれない。冬。冬の風は冷たくて、自分の体を押し返してくるような感覚になるに違いありません。それでも「負けないように」と自分を奮い立たせて風に向かつてペダルをこぐ作者の姿が浮かんできます。まさに今受験に向かつて真正面から挑んでいる作者の決意や姿も想像させてくれる句です。希望が叶うよう、心からエールを送ります。

秀逸

素足での体育館の寒げいこ

大垣市

市川 椋一（小六）

空高しコツをつかんだこうさとび

大垣市

水谷 洸士郎（小二）

雪の朝校門ひらく音ひとつ

加茂郡川辺町

吉田 心優（中二）

もちつきの木遣りとともにもちのびる

加茂郡川辺町

市川 星夏（中二）

雪の朝赤い顔した君がいる

加茂郡川辺町

福園 恵菜（中三）

久しぶりおでんの中のゆで卵

加茂郡川辺町

工藤 結奈（中三）

なわとびにからまる妹年の暮

加茂郡川辺町

神農 はな（中三）

白い息競いあつて通学路

加茂郡川辺町

高井 菜々美（中三）

ゆきだるまみんなで作るたからもの

大垣市

森川 結月（小四）

まつ黒なかおでしょうぶだ羽つきで

大垣市

はっとり つかさ（小三）

## 入選

冬の月ベランダから見たふろ上がり

大垣市

陸田 峻生（小四）

冬の風渴いたのどに缶ジュース

加茂郡川辺町

石丸 奏太（中二）

雪合戦野球の成果を発揮する

加茂郡川辺町

渡邊 瑛汰（中二）

初雪や校庭白く声ひびく

加茂郡川辺町

木下 仁瑚（中二）

初雪だ家飛び出してかけ回る

加茂郡川辺町

加藤 龍之介（中二）

換気する窓を開けたら冬のおい

加茂郡川辺町

加藤 優奈（中二）

白い息真赤な頬が笑ってる

加茂郡川辺町

平岡 初月（中二）

木枯らしや信号待ちの影ふたつ

加茂郡川辺町

福井 愛琉（中二）

こたつ猫足の上にてスピスピと

加茂郡川辺町

高橋 なな未（中三）

ストーブのとう油のにおい冬感じ

加茂郡川辺町

北村 琉音（中三）

雪景色静かな街に影ひとつ

加茂郡川辺町

木下 愛琉（中三）

雪景色君の頬だけピンク色

加茂郡川辺町

土屋 奈々（中三）

のぞきこむえがおにみえるゆきだるま

大垣市

まるやま ふみか（小四）

家族のも一人じめしたプロッコー

大垣市

市川 珠理（小四）

すこしだけつもったゆきを手でかため

大垣市

大前 七海（小四）

おおみそかカウントダウンゆめでする

大垣市

戸谷 優莉（小四）

こまあそびひっぱりすぎてとんでつた

大垣市

川さき りおな（小三）

にんじんが鼻になってるゆきだるま

大垣市

ささ木 りょう（小三）

お年玉ちよ金がふえるばく上がり

大垣市

こ玉 ま央（小三）

お正月ねてないけれど元気です

大垣市

なかしま ももか（小三）

## 選者吟

教へ子の賀状に名前増えてをり

まさる

## 小中学生の部

